

「3・11いわて教会ネットワーク」ニュース

Vol.2 2011年4月10日

「3・11いわて教会ネットワーク」との関わりの中で、 被災地支援に従事して下さった諸教会、諸団体

3月11日の大震災後、多くの教会、団体の方々が被災地に入り、支援活動に従事して下さいます。一つ一つの尊いご奉仕に心から感謝致します。以下は今までの間、私たちのネットワークとの関わりの中で被災地支援に従事して下さいました諸教会、諸団体です。

青森 OMF チーム(3月17日～4月9日 宮古、釜石、大槌、大船渡)

ホクミン(北海道クリスチャン・ミッション・ネットワーク)チーム

(3月21日～4月8日 釜石、大槌、久慈、野田、田野畑、田老、宮古)

聖契キリスト教団インターナショナル・バイブル・フェロウシップ(IBF)チーム

(3月23日～ 宮古、田老、大船渡)

クラッシュ・ジャパン・チーム(3月25日～ 遠野、釜石、大槌、大船渡)

同盟基督教団信州チーム(3月29～4月1日 釜石、大船渡)

長老教会名古屋チーム(3月29～31日 釜石、大槌)

聖書宣教会視察チーム(3月29～30日 宮古、山田、大槌、釜石)

キャンパスクルセード東京・大阪チーム(3月29～4月2日 気仙沼、大船渡)

エマージェンシ-ミニストリー・サービス(EMS)チーム(4月4～5日 宮古、田老、大槌、釜石)

キャンパスクルセード名古屋チーム(4月5～8日 気仙沼)

小山バプテスト教会チーム(宮古、釜石)

盛岡聖書バプテスト教会チーム(宮古、田老、山田、大槌、釜石、大船渡)

盛岡みなみ教会チーム(田老、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)

盛岡チャペルチーム(久慈、野田、田野畑)

北上聖書バプテスト教会チーム(大船渡、気仙沼)

水沢聖書バプテスト教会チーム(気仙沼)

被災地にあつて協力して下さいしている諸教会

バプテスト久慈教会

宮古コミュニティチャーチ

大船渡聖書バプテスト教会

盛岡仙北町キリスト教会山形村集会所

釜石新生教会

気仙沼聖書バプテスト教会

被災地支援活動報告

3月30日(水) 宮古

先週土曜日に続き、「避難所の子どもたちと遊び隊」を再結成し(「浸水家屋を片づけ隊」も結成されました)、宮古市に行って来ました。平日ということもあり学生たちが中心、私も今回は泥部隊ではなく子ども隊に参加です。

遊びながら、ふと耳を傾けてみれば「1階がやられた。」「家は流された。」「もう(親との再会は)駄目かと思ったけど、次の日探して迎えに来てくれた。」「…等の言葉が並びます。そんな彼らに対して、かける言葉を見つけることは容易なことではありません。

前回の訪問から4日。非日常の生活が強いられ続ける被災地にあって、4日前とは「はるか昔」。前回に続いて参加した妻との再会の喜びを、飛びついて体全体で、そして満面の笑みで表してくれた女の子。その笑みの裏側には、本来持つ必要のない言い得ぬ不安と寂しさがどれだけ隠されていることでしょうか。家に帰着し、一息ついて目を閉じれば、最後まで手を振り続けていたその姿が浮かんでくるのです。

(近藤愛哉)

4月5日(火) 田老

田老地区の沿岸地域、骨組みだけが残された建物は「保育所」。想像することさえ恐ろしい…3/11午後3時頃…その時、そこで何が…。今日の午後、田老地区総合事務所にて、恐る恐る尋ねる。「あの保育所にいた子ども達は…?」「保育所に残っていた子ども達は無事でした。」…! 盛岡みなみ教会・大塚牧師、アメリカからのEMSチームと共に、先生と子供達が移動して保育が続けられているという場所を訪ねる。

警報が鳴り響いたその時、先生方は昼寝から覚めた子供達、昼寝中の子ども達を連れて指定されていた避難場所に移動。余震を恐れ、建物には入らぬままに振り返ったその先に見たものは、その場所までも迫り来ようとしている水の壁。13人の先生方で、死に物狂いで抱え上げ、逃げに逃げて救った子どもは37人。しかし、迎えと一緒にすでに帰宅した子どもたちの中には…。…涙。

必要は、建物と共に流されてしまった絵本、玩具等とのこと。先ほど夜中に到着した聖契教団・IBFチームが千葉から運んで来て下さったのが、まさに「絵本」という不思議。明日、それらの絵本を届けます。悲しみの中にあって、それでも絵本を開くその時に、先生方の、子どもたちの顔に笑みが浮かぶことを願いながら。

(近藤愛哉)

4月5日(火) 気仙沼

キャンパスクルセード名古屋チーム8名と水沢聖書バプテスト教会の2名、計10名が気仙沼市田中前地区での支援活動にあたりました。先週、この地区で活動したキャンパスクルセードのチームが、地域とのパイプをしっかりと築いてくれていましたので、すぐに地域に入り込むことができました。この地区は海から3キロも離れているのに、近くに川が流れているために、川をさかのぼって来た津波によって被災。多くの家屋が少なくとも一階部分は泥だらけになりました。今日、私たちがお手伝いさせていただいたのは老夫婦二人だけのお宅。若い人でも大変な作業を、年配者だけで片付けるのは本当に大変なことです。泥の掻き出し、室内清掃の作業を皆で4時間続け、だいぶきれいになりました。

(若井和生)